

地域レベルの会議における主な議論のまとめ (地域の課題および市の課題)

- (1)地域で起きている問題と課題は、1～12のテーマに分類し、地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で話し合われた内容をそれぞれ記載した。
- (2)地域での対応方針は、地域包括ケア推進会議で挙げられたものを内容に応じて、「実態把握」、「普及啓発」、「連携強化」、「取組検討」の4つに分け、さらに取組状況として「すでに取り組んでいる」ものについては、下線を引いて記載した。
- (3)市レベルの課題は地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で挙げられたものをそれぞれ記載した。

松戸市地域ケア会議におけるテーマ

テーマ
1. 認知症
2. 介護予防
3. 多分野・地域共生
4. 国際
5. ペット
6. 生活支援
7. 移動支援
8. 見守り
9. 災害
10. 医療・介護連携
11. 権利擁護
12. 地域包括ケアシステム

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区	
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		
1. 認知症	<p>●認知症の普及啓発</p> <p>○地域住民の認知症の理解に差がある(個1・18・29)</p> <p>○万引きや問題行動の背景に認知症があることが知られていない(個24)</p> <p>○家族の認知症に対する理解が十分でない(個18・44・45・53)</p> <p>●見守り・支援体制の不足</p> <p>○認知症により拒否があると地域での見守りが難しい(個22)</p> <p>○毎日の安否確認や見守りが必要な方への支援の不足(個50)</p> <p>○転居してきた認知症の方の支援(個30・38)</p> <p>○徘徊による家族の負担が大きい(個46・53)</p> <p>○認知症高齢者のボランティア活動の場がない。(個3)</p> <p>●認知症の方の意思決定支援</p> <p>○介護者の高齢化等、入院等のライフイベントがあった際の意思決定の難しさ(個10・11・12・25・34・49)</p> <p>○認知症高齢者がセルフネグレクトに陥りやすい(個19・30)</p>	<p>○地域住民等の認知症への理解、高齢者への接し方の周知が不十分な点について</p> <p>○家族関係や地域との関係が希薄な為、必要な情報が届かない事がある</p>	実態把握	○認知症の理解について住民や店舗、配達に関わる方、薬局などの実態把握。			<p>明2西 本庁 東部 六実六高台 小金原 新松戸 馬橋西</p>
			普及啓発	○認知症や相談先の周知を進める ○成年後見制度の普及啓発を図る ○認知症の高齢者や家族に対しては、個別に情報を伝える。	○高齢者に対する正しい情報発信	○認知症を我が事として考えられるような定期的な周知活動 ○相談先周知に向けチャットボット活用などの新しい方法の検討。 ○認知症等サポート体制や制度の紹介、問題の情報共有	
			連携強化	○障害事業所等に対しても、認知症の方の特性の理解を深め、連携強化や協働した支援体制の構築を図る。 ○店舗や配達業者等、民間事業所も含めた多様な見守りネットワークの構築を進める。	○認知症高齢者の徘徊を地域で見守る体制づくり。 ○認知症の進行具合に合わせて地域と専門職の協働を推進する ○徘徊高齢者への支援における警察との連携強化		
			取組検討	○認知症カフェ等を開催し、認知症の方や家族の方が安心して過ごせる場所、認知症の方の理解を深める場を増やす。	○認知症高齢者のボランティア活動の場がない。	○高齢者等見守り協定締結事業者を増やす。 ○認知症の方にも分かりやすいゴミ分別の周知	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
2.介護予防	<p>●社会資源の不足</p> <p>○外出した時に途中で休憩できる場所作り（自2）</p> <p>○安心して外出できるように地域の方で見守りができる地域作り。（自2、8）</p> <p>○軽度者に対する介護保険サービス以外の受け皿となる体操教室などの社会資源の不足。選択肢の拡大。（自1、9）</p> <p>○同世代の人や独居高齢者が繋がる機会を作る（自11、12）</p> <p>○介護保険外で地域の活動に参加できるような支援（自8）</p> <p>●セルフケア不足</p> <p>○コロナ禍により、外出する機会が減少。フレイル状態となる人が増加。（個47、自10）</p> <p>○身体機能低下により、外出困難（自11）</p> <p>○フレイル予防の取り組みの周知（自3）</p> <p>●担い手への支援</p> <p>○傾聴ボランティア等の担い手育成、普及（個26、自9）</p> <p>○要支援者の受け入れ可能な訪問介護事業所の不足（自7）</p>	<p>○新たな居場所、通いの場を作るために、地域へ必要なアプローチについて</p> <p>○居場所、通いの場の情報交換について</p>	実態把握		<p>○傾聴ボランティア育成、普及</p> <p>○集いの場を開催しやすくするための場所の確保、提供</p> <p>○要支援者のサービス供給の検討</p> <p>○住民主体の支援団体の育成</p>	
			普及啓発		<p>○転入してきた高齢者に対して、地域活動や健康相談の場について周知、案内</p>	○担い手の育成
			連携強化	<p>○退職してから介護サービスを受けていない元気高齢者</p> <p>○1対1で集える場づくり</p> <p>○お店の出張買い物サービス、介護施設に協力してもらい、買い物ツアー</p>		○市の様々な課と連携し、活動の場を決める
			取組検討	<p>○介護予防の体操教室等の回数を増やす。</p> <p>○認知症カフェ等の開催。</p>		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区	
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		
3.多分野・地域共生	<p>●障害分野との連携</p> <p>○介護と障害分野が互いの制度について学ぶ機会が少ない。(個4)</p> <p>○障害サービスから介護保険サービスへの移行によるサービス調整が難しい(個24)</p> <p>●多問題を抱える世帯への支援</p> <p>○主介護者も課題を抱えていることによる支援の複雑化(個10)</p> <p>○学校との連携、子どもへの支援(個32)</p>	<p>●障害分野との連携、制度の理解不足</p> <p>○関係機関の関りが希薄、連携が不十分</p> <p>○介護保険サービスと障害福祉サービスの併用について、専門職の理解が不十分</p> <p>●多問題を抱える世帯への支援不足</p> <p>○家族が疲弊していても、助けを求められず、共倒れになってしま</p> <p>○近隣住民や民生委員、相談協力員による関り、見守り、声かけが必要。</p> <p>○目的別のサークル活動以外に、気楽に誰でも参加できるサロンや集いの場なども必要。</p>	普及啓発	<p>○専門職が他分野の研修会などを知ることができる仕組みを作る。</p> <p>○地域で見守る、連携する、「住みやすい街作り」の意識を持つ。近所のお世話好き「おせっかいさん」を増やす。</p> <p>○町会など本来的な役割の見直し、活動の活性化</p>		<p>○地域共生社会、様々な制度に関する勉強会の企画、交流会の開催</p>	<p>明第1 明2西 明2東 常盤平 小金原</p>
			連携強化	<p>○多世代での交流(子ども食堂や公園、公民館、学校の空き教室の活用。)</p> <p>○高齢者が子供に麻雀・将棋・囲碁など教える。</p> <p>○介護保険と障害福祉分野の相互理解や顔の見える関係が必要</p> <p>○専門職の合同勉強会等を開催し、特性の理解を図る。</p>	<p>○障害福祉と介護分野の連携機会の確保</p>		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
4.国際			実 態 把 握			
5.ペット	<p>●高齢化によるペット飼育の維持、譲渡の困難</p> <p>○高齢となりペット飼育が難しくなるが譲渡手続きが煩雑でできない(個15)</p> <p>○ペットとの生活が生きがいが、認知症により維持が困難(個15)</p>	<p>○高齢者自身の身体・認知機能低下で適切な飼育が出来なくなる可能性があることについて</p> <p>○災害時にペットとの避難や飼育継続の体制について</p>	実 態 把 握	○ペットを飼っている高齢者の実態把握の継続。 ○災害時のペットとの避難についても実態把握を行うことが必要。		本 庁
			普 及 啓 発	○個別訪問時などにパンフレットを活用し飼い方等周知。 ○ペットの普及啓発教室などの開催。	○高齢者へ向けたペット飼育の理解と周知	
			連 携 強 化		○ペット飼育に関するインフォーマルサービスとの連携強化	
			取 組 検 討	○災害時要援護者の把握時にペットの有無も確認。 ○地域災害対策の検討にペットとの避難も含めていく。	○ペット飼育に関するインフォーマル支援の充実	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
6.生活支援	<p>●在宅生活全般を支えるための課題</p> <p>○高齢者の割合が高い地域では、近隣同士での助け合いが難しい。(個2)</p> <p>○アパート住民は町会に加入していない方も多く実態把握が困難。(個35)</p> <p>・身近にピアサポートの会がない。(個28)</p> <p>・家事の経験少ない独居高齢者を支える仕組み不足(個56)</p> <p>・障害者にも配慮したスマホ教室の開催(個27)</p> <p>●拒否がある方の生活を支える</p> <p>○介護保険サービスに対し、拒否する方が多い。(個12、自4)</p> <p>○精神疾患や長年の生活歴により時間等の縛りがあるサービスに繋ぐことが難しい。(個23)</p> <p>○自身の状態を冷静に把握する事が難しい方への自己決定支援と意思決定支援の双方の重要性(個36)</p> <p>●ゴミの分別</p> <p>○ゴミ(もの)を処分するための手段が少ない。(個2)</p>	<p>○新規転入者への情報発信方法や、ニーズの把握方法について</p> <p>○地域の中で、孤立を防ぎ見守りや声掛け等の支援体制を作るために、ゴミ問題を通して、それぞれの立場でどのような予測ができるか。</p> <p>○ゴミの分別が細かく認知症の方には対応できずゴミ問題が発生する</p>	実態把握	<p>○若年層のゴミ問題と高齢者のゴミ問題は解決すべき課題が異なる。若年層は自立支援が求められる。</p>	<p>○市民に困りごとのアンケートをし、適切な機関に結果を伝える。</p>	<p>明1 明2西 明2東 矢切 東部 常盤平団地 五香松飛台 馬橋</p>
			普及啓発	<p>○情報掲載場所の検討</p> <p>○既存の情報発信ツールの活用</p> <p>○日々の暮らしの最小限の情報を提供する</p>	<p>○専門職に対するセルフネグレクトの研修</p>	
			連携強化		<p>○ゴミ収集に関して民間事業者やボランティアとの連携を図る</p>	
			取組検討	<p>○ごみを間違えてしまった高齢者に対して指摘するのではなく教えてあげるような言葉がけをする。</p>	<p>○ゴミ屋敷が増加していることへの対策、予防的な介入</p> <p>○高齢者が契約できる物件の確保</p>	<p>○ごみの分別が細かく分かれているため、機能低下している高齢者または認知症高齢者にはゴミが出せない状況が生じている。</p>

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
7.移動支援	○疾患等による身体機能の悪化や 気力低下から外出機会が減少(自 3、11)		取 組 検 討		○他者と趣味が共有できるよう外 出支援を進める。 ○ショッピングセンターで買い物 したいという思いを叶える多様な 移動手段の検討 ○グリスロなど移動手段の拡大。	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
8.見守り	<p>●孤立化への対策</p> <p>○近隣住民や民生委員、相談協力員による見守り、声かけが必要。(個25、27)</p> <p>○認知症の進行具合に合わせて地域と専門職の協働を推進する(個33、40)</p> <p>○地域で支える限界点についての理解が必要(個41、50)</p> <p>●地域からの孤立</p> <p>○地域住民の認知症や精神疾患への理解、接し方の周知が不十分。(個1、46、49、50、51)</p> <p>○周囲との交流を望まない方、世帯への支援(個1、9、17、22、25、29、32、33)</p> <p>○介護を受けている本人や介護者が、地域の人と交わる場や交流の機会が少ない。(個42)</p> <p>○地域との関わりのない閉じこもり高齢者の見守り体制構築に関わる検討(個55)</p> <p>●在宅生活での環境整備</p> <p>○スマホやタブレットの貸出、体験、費用助成(個27)</p>	<p>●見守り体制の強化</p> <p>○支える側の育成。</p> <p>○病識の欠如から認知症の方への対応の仕方で苦慮している事を抽出</p> <p>○接し方の周知が不十分な部分がある。</p> <p>○通常、地域では万引きや問題行動に対して認知症があると判断できずに警察通報をしてしまう。⇒ヘルプカード・マークなどの普及啓発が必要)</p> <p>●見守りが困難</p> <p>○町会未加入・近所付き合いが少ないなど地域とのつながりが希薄。</p> <p>○見守る側も見守られる側も高齢者、高齢化が進むことにより対応に困る。</p> <p>○徘徊高齢者や毎日安否確認や見守りが必要な方に対する支援体制の不足もあり、地域で生活を支えるにも限界がある。</p>	実態把握			○民生委員欠員地区が多く、他地区の民生委員に負担が生じている。
			普及啓発	○障害のある子と暮らす家族が早期に相談できる窓口の案内	○軽度の精神疾患患者が生活しやすい地域作り	○相談窓口の周知のための情報を発信。
			連携強化	○薬局：衣類の乱れや残薬があるのに来院する方などへ声をかける。話しやすい関係作りをしている。見守り協定を締結している薬局同士では毎月情報共有を行う。	○地域の中で介護を受けている本人や介護者が、地域の人と交わる場・交流の機会の整備	○徘徊高齢者への支援、警察との連携強化
取組検討		○地域・ボランティア：個別の見守りと安否確認を兼ねた集まる場の開催をする。活動内容や課題が出てきた場合は話し合いを行う。	○店舗、配達に関わる方：高齢者への対応についての指導や動画での接客研修を実施。いつもと違う状況があった際には地域包括や行政への相談を周知。	○出張包括やパトウォークを町会・自治会と行い、地域とのつながりを強化する。	○今までゴミ出しが出来ていた人が出来なくなることをスクリーニングの機能として位置付け支援する。	○地域住民だけではなく、公的機関を含めた見守りや支援体制作りが必要

矢切
東部
六実六高台
小金原
新松戸

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区	
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		
9.災害	<p>○災害避難時避難行動要支援者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスト作成が必要（個人情報管理の壁がある）（個5、6、7） ・市・町会・ケアマネ・地域包括などの連携ができていない。（個5、6、7） ○認知症の方の災害時への備え（個6・7） 	<p>○災害時の地域とケアマネの連携</p> <p>防災、災害時の対応について、地域包括として取り組むべきことが明確になっていない。</p>	実 態 把 握	○民生委員では、高齢者のリスト作りを進めている。	○災害避難時避難行動要支援者のリスト作成が必要（個人情報管理の壁がある）	<p>本庁 五香松飛台 馬橋</p>	
			普 及 啓 発	○各介護事業所では、利用者の状況の把握や啓発活動を行っている。			○防災計画や避難計画の普及啓発
			連 携 強 化	○災害時における民生委員・相談協力員とケアマネとの連携方法の会議を8月に実施。	○要介護者の災害時避難について、市・町会・ケアマネ・地域包括などの連携ができていない。		○災害時の地域包括や介護事業所との情報共有のシステムづくり

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
10.医療・ 介護連携	<p>●病識の欠如、認知機能低下等により健康管理や支援が難しい世帯への対応</p> <p>○アルコール依存の方が依存症として認識しないと支援が困難。(個21)</p> <p>○医療と介護の連携強化が必要(個14)</p> <p>●複数科にまたがる方の医療への接続</p> <p>○内科～精神科まで総合的に対応が可能な病院がない(個16)</p> <p>●入退院支援</p> <p>○コロナ禍で、入院中に本人に面会できない場合、医療機関とケアマネの情報共有をオンラインや書面等の可能な方法で行う必要がある。(個20)</p> <p>○地域と病院の連携の在り方を見直していく必要がある(個58)</p> <p>●在宅生活の限界点の理解</p> <p>○介護度が高くなると、在宅での暮らしが続けられないケースが多い。(個41)</p>		実態把握	○感染対策が必要な際の、退院カンファレンスガイドラインの作成	○介護度が高くなると、在宅での暮らしが続けられないケースが多くなる。	
			連携強化	○精神科を含めた総合的な治療が可能な医療体制づくり		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区	
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		
11.権利擁護	<p>○権利擁護に関する理解と制度周知(個17)</p> <p>○詐欺被害等が増えてきている(個52・57)</p> <p>○金銭管理などの困難な高齢者を支える仕組みが不足している(個56)</p>	○地域の見守り状況について(詐欺被害の状況等も含む)	実態把握	○訪問する際などに詐欺被害にあっていないかや今後被害にあう可能性が無いかなど気を付けて対応する様になった。		本庁 馬橋西	
			普及啓発		○消費者被害への普及活動		○詐欺被害の普及啓発活動、講演会の実施等。
			連携強化		○繰り返し被害にあっている方に支援が入れるような配送会社等との連携		
			取組検討		○日常生活自立支援事業利用までの期間が長い		
12.地域包括ケアシステム			実態把握				